

3.1.4 地形及び地質の状況

1. 地形の状況

事業実施想定区域周辺における地形の状況は、図 3.1-12 のとおりである。

事業実施想定区域周辺には、大起伏山地、砂礫台地、岩石台地等が分布している。

また、事業実施想定区域及びその周辺海域の海底地形は、図 3.1-13 のとおりである。

事業実施想定区域内の大部分は水深 100m までの範囲であるが、一部の沖合では、等深線が複雑になっており、水深 1,000m 近い箇所も存在する。

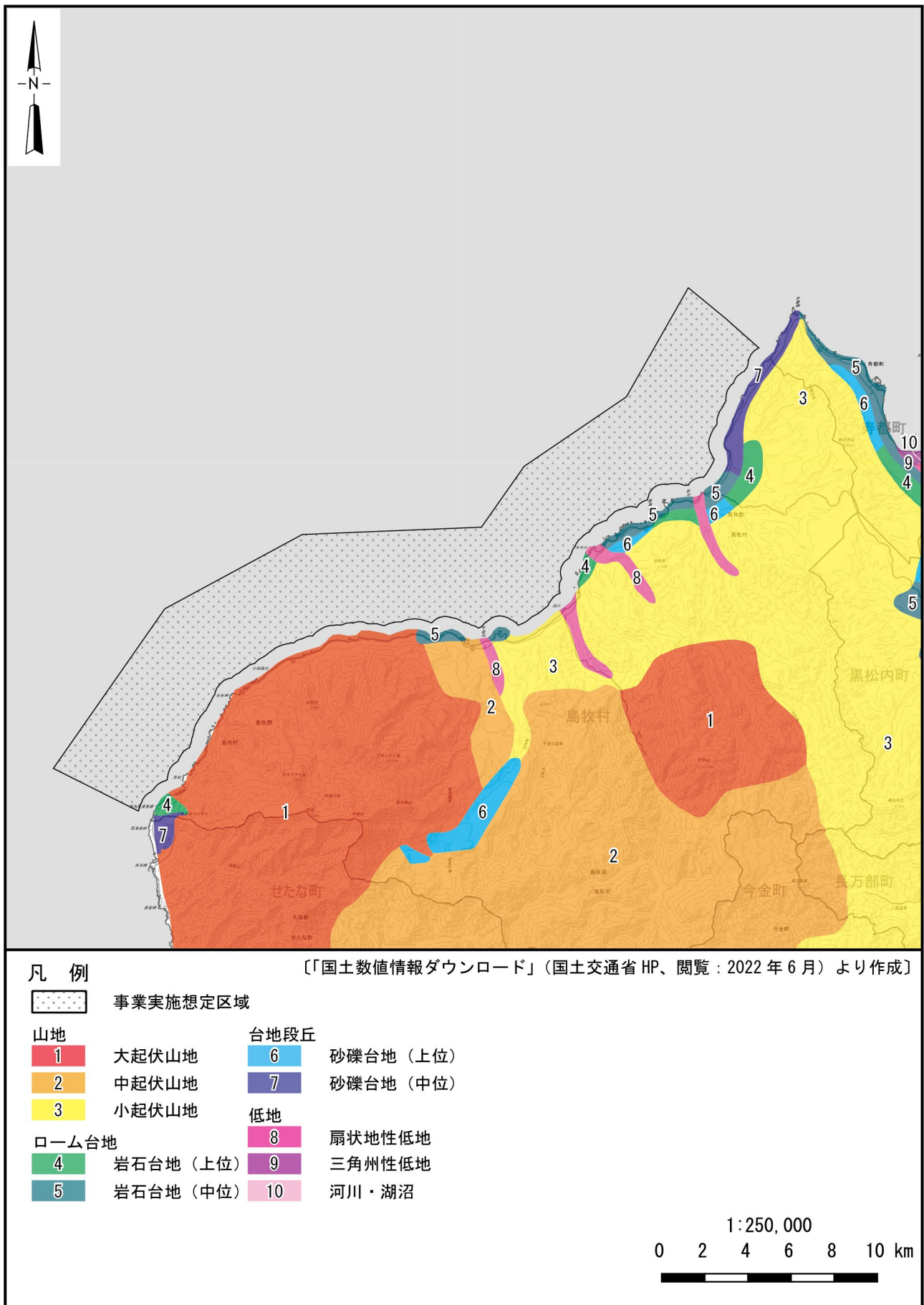


図 3.1-12 地形分類図

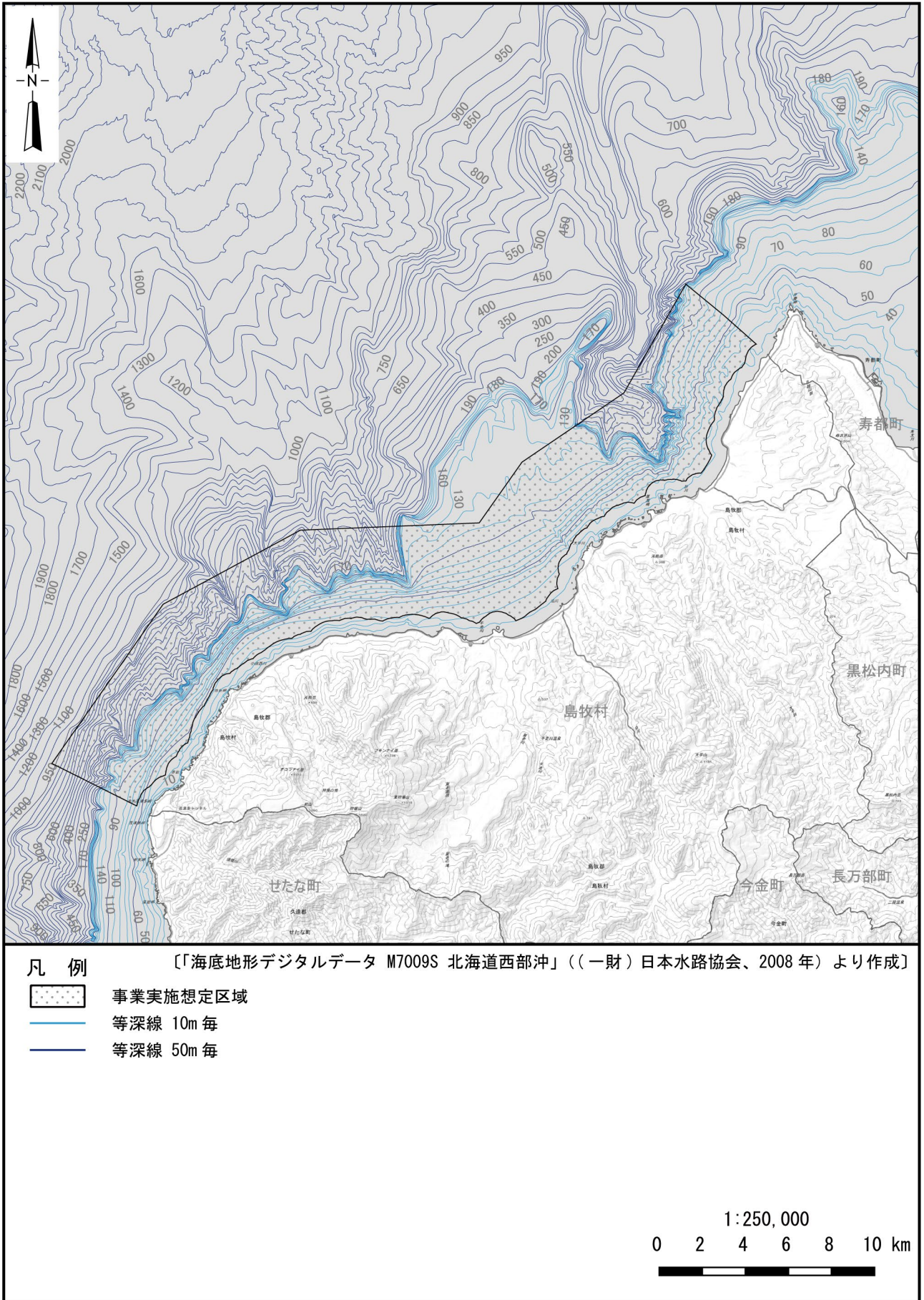


図 3.1-13 海底地形図

2. 地質の状況

(1) 表層地質の状況

事業実施想定区域周辺における表層地質の状況は、図 3.1-14 のとおりである。

事業実施想定区域周辺には、凝灰岩質岩石、安山岩質岩石、火山角礫岩・凝灰角礫岩等が分布している。

(2) 海底地質の状況

事業実施想定区域及びその周辺海域における海底地質の状況は図 3.1-15、底質分布の状況は図 3.1-16 のとおりである。

事業実施想定区域の海底地質は主に中新世堆積層、新第三紀～第四紀火山岩類等が分布しており、底質は主に細粒砂、極細粒砂、中粒砂となっている。

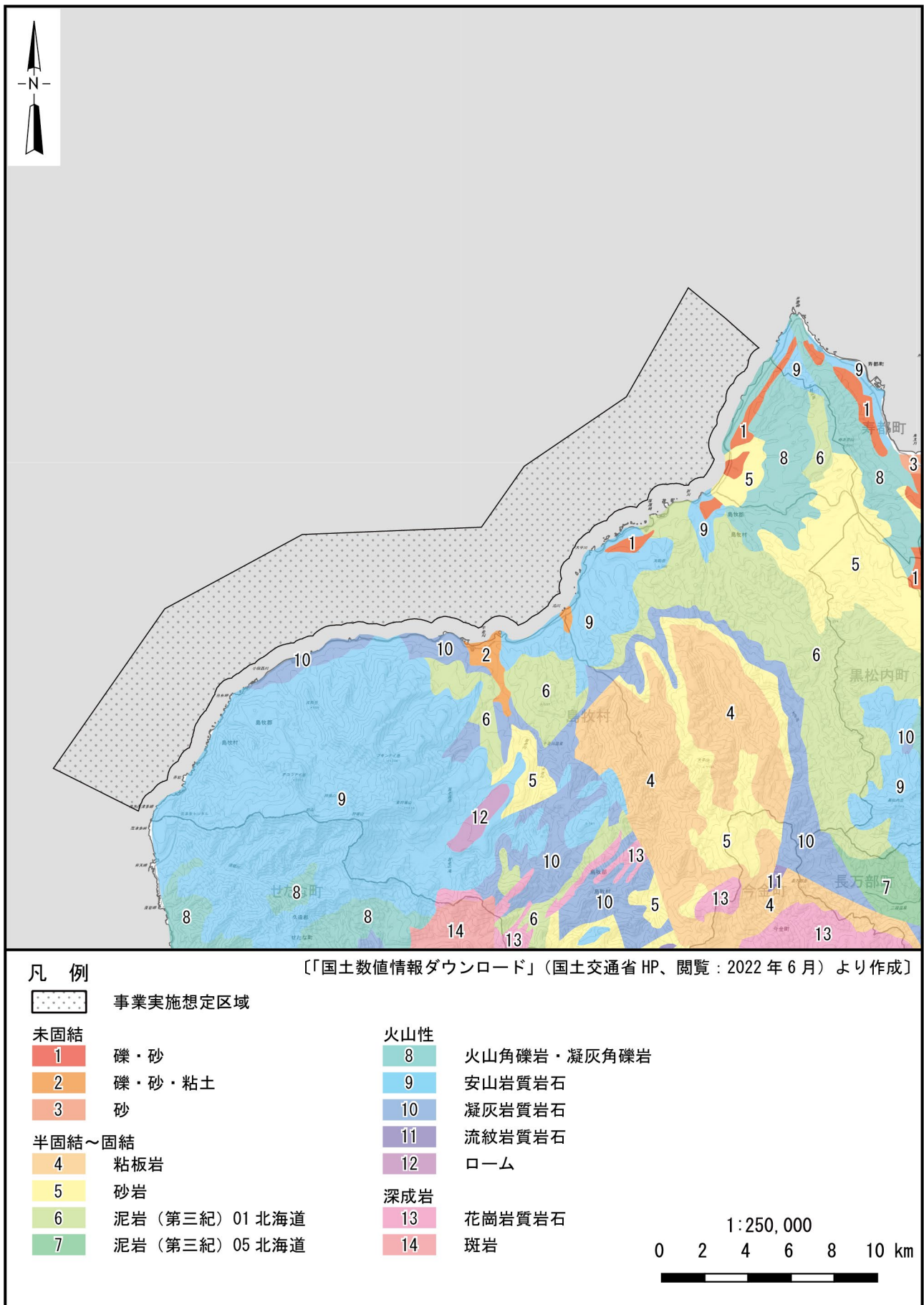


図 3.1-14 表層地質図

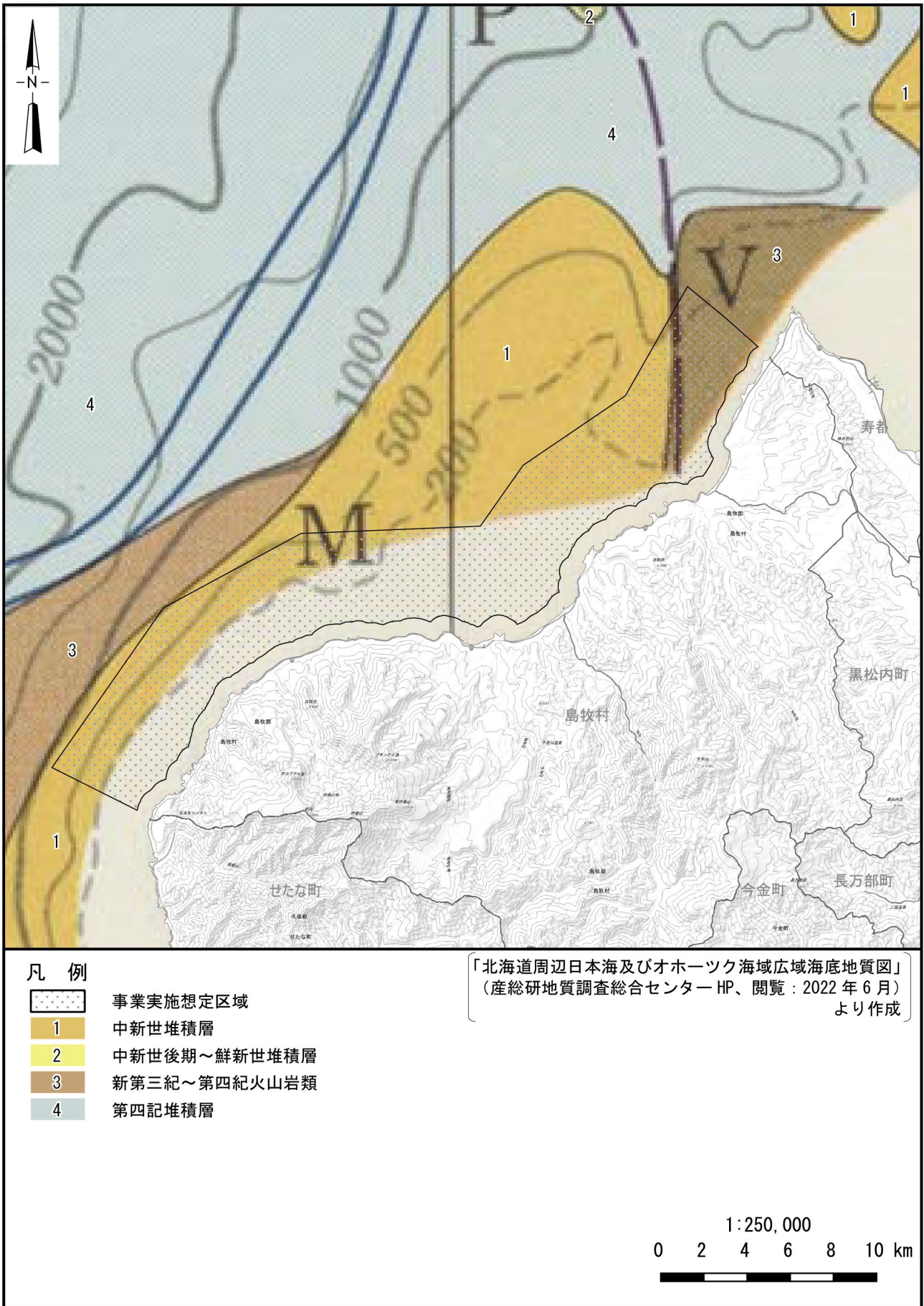


図 3.1-15 海底地質図

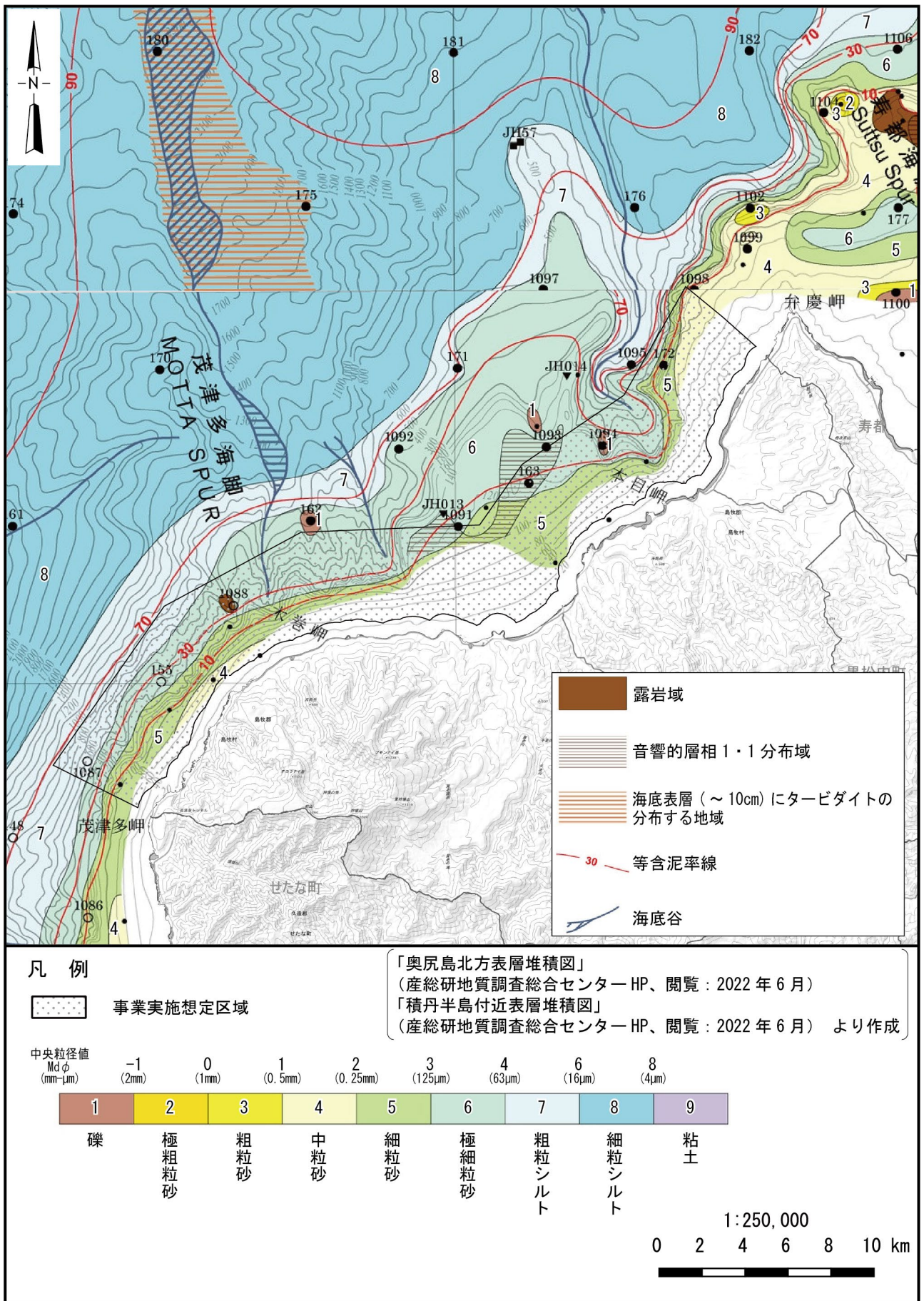


図 3.1-16 底質分布図

3. 重要な地形・地質

事業実施想定区域周辺における「日本の典型地形」（（財）日本地図センター、1999 年）に選定された典型地形の状況は表 3.1-21、その位置は図 3.1-17 のとおりである。

事業実施想定区域周辺に地すべり地の「狩場山地」、滝及び滝壺の「賀老の滝」が存在する。

なお、事業実施想定区域周辺において、「日本の地形レッドデータブック第 1 集 新装版－危機にある地形－」（古今書院、2000 年）に選定された重要な地形は存在しない。

また、事業実施想定区域周辺において、「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 3 年 4 月 23 日）及び「北海道文化財保護条例」（昭和 30 年北海道条例第 83 号、最終改正：平成 21 年 3 月 31 日）に定める名勝及び天然記念物に指定された地質は、北海道指定文化財の天然記念物である「二股温泉の石灰華」が存在し、その位置は図 3.1-17 のとおりである。

表 3.1-21 典型地形の状況

番号	地形項目	名称	所在地	備考
1	地すべり地	狩場山地	島牧村	—
2	滝及び滝壺	賀老の滝	島牧村	千走川上流 高さ 70m 日本の滝百選

注：番号は図 3.1-17 に対応する。

〔「日本の典型地形について」（国土地理院 HP、閲覧：2022 年 6 月）より作成〕

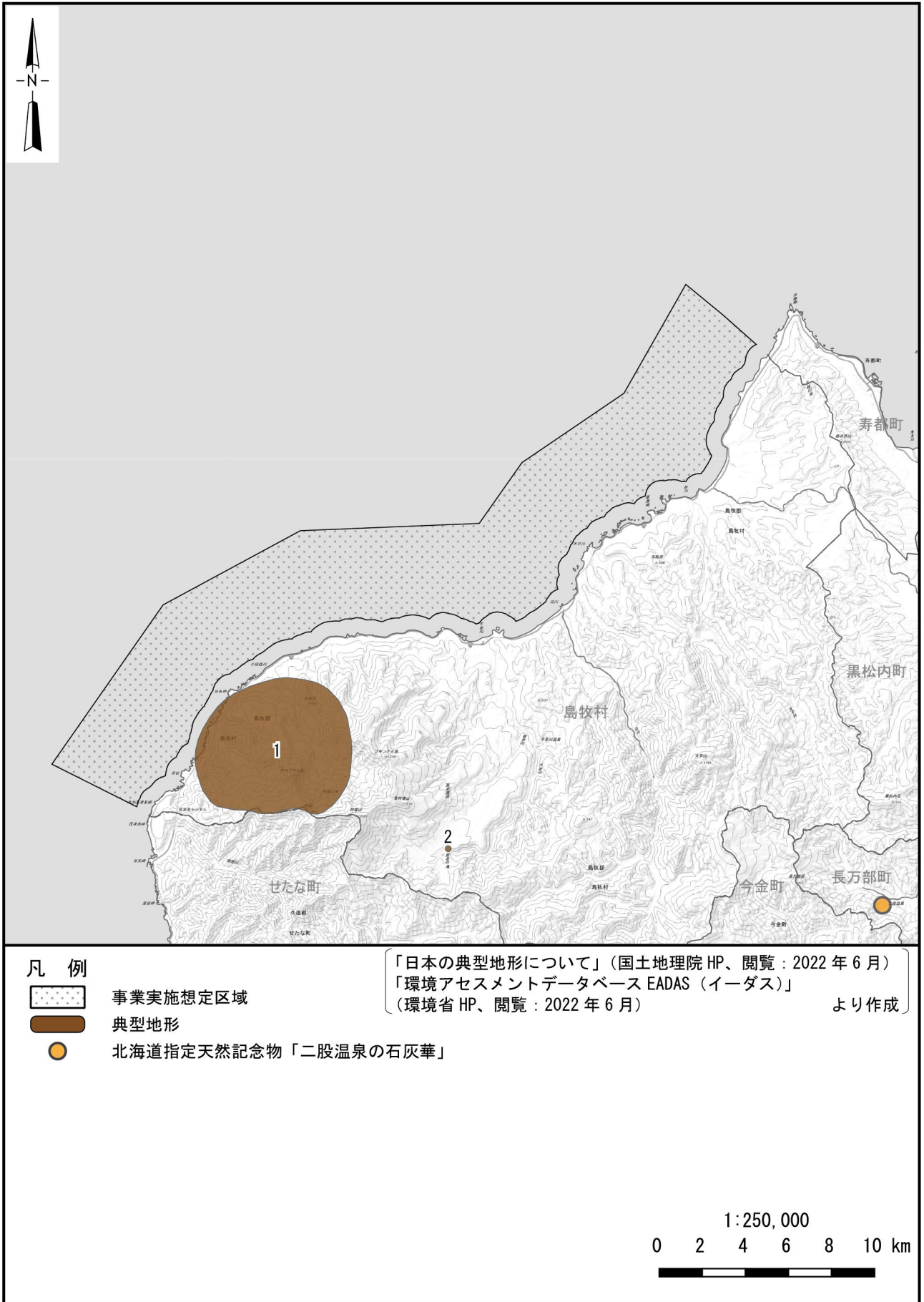


図 3.1-17 地形の状況 (典型地形及び重要な地形)